

2023年11月期 決算補足説明資料

ティアンドエス株式会社
(東証グロース 4055)

2024.1.12



T&S
Technology & Service

ハイライト	p. 3
決算概要	p. 4
営業利益の状況	p. 6
業績推移	p. 7
カテゴリー別売上高	p. 8
取引先別売上高	p. 9
四半期別売上高・営業利益	p. 10
主要取引先動向	p. 11
エンジニアの状況	p. 12
損益計算書	p. 13
貸借対照表	p. 14
トピックス	p. 15
通期業績予想	p. 17
株主還元	p. 19

(今期のテーマ)

成長の継続

1 過去最高収益を継続(過去同期比)

売上高	: 34億 42百万円	(5.7%増↑	増加額: 186百万円)	(前年同期比)
営業利益	: 6億 43百万円	(4.2%増↑	増加額: 25百万円)	(同)
経常利益	: 6億 48百万円	(3.5%増↑	増加額: 22百万円)	(同)
当期純利益	: 4億 73百万円	(7.6%増↑	増加額: 33百万円)	(同)

2 半導体カテゴリーが堅調に推移

- ▶ 半導体カテゴリーの売上高は前年同期比**13.2%増**。半導体市況低迷の影響を最小限に抑え、好調を維持。
- ▶ ソリューションカテゴリーの売上高は前年同期比**6.4%増**。主要取引先からの受託開発案件の受注が安定して推移したことに加え、その他取引先からの受注が拡大した。
- ▶ 先進技術ソリューションカテゴリーの売上高は前年同期比**19.3%減**。前期に売上計上された大型案件の反動により売上高が減少した。

3 2024年11月期は増収・増益率アップの見通し

上記2023年11月期の実績増収増益率を上回る見通しです。

売上高	: 37億70百万円	(前年実績比 9.5%増↑	増加額: 327百万円)
営業利益	: 7億 6百万円	(前年実績比 9.7%増↑	増加額: 62百万円)

決算概要

2023年11月期 通期

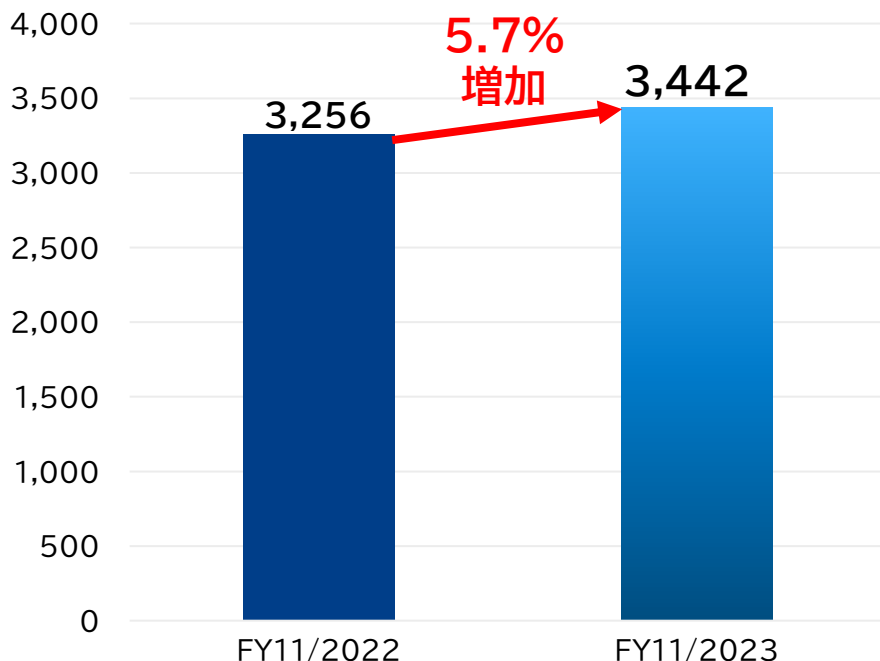
過去最高収益を継続

(過去同期比)

売上高	: 34億 42百万円	(5.7%増↑	増加額: 186百万円	(前年同期比)
営業利益	: 6億 43百万円	(4.2%増↑	増加額: 25百万円	(同)
経常利益	: 6億 48百万円	(3.5%増↑	増加額: 22百万円	(同)
当期純利益	: 4億 73百万円	(7.6%増↑	増加額: 33百万円	(同)

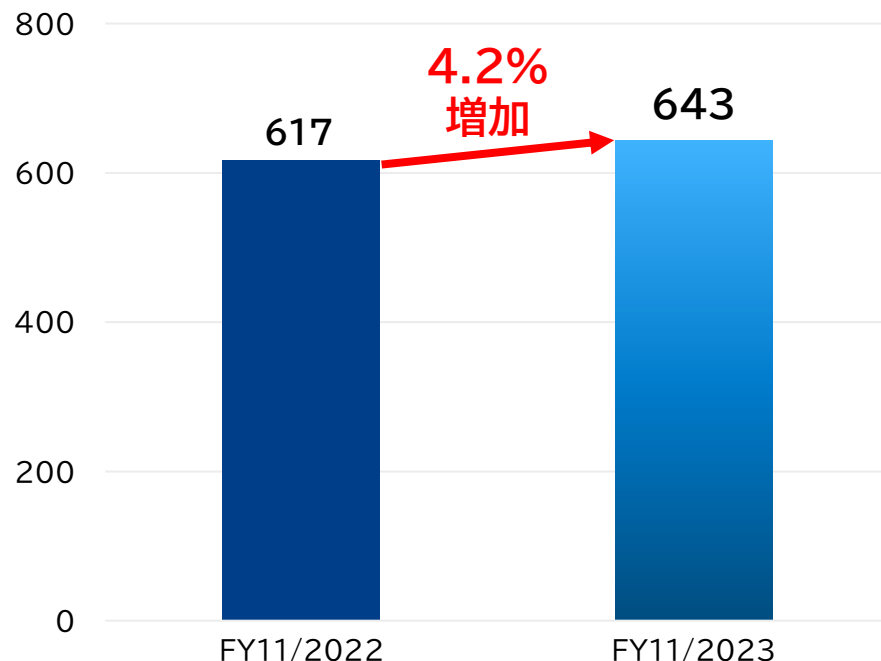
(単位:百万円)

売上高



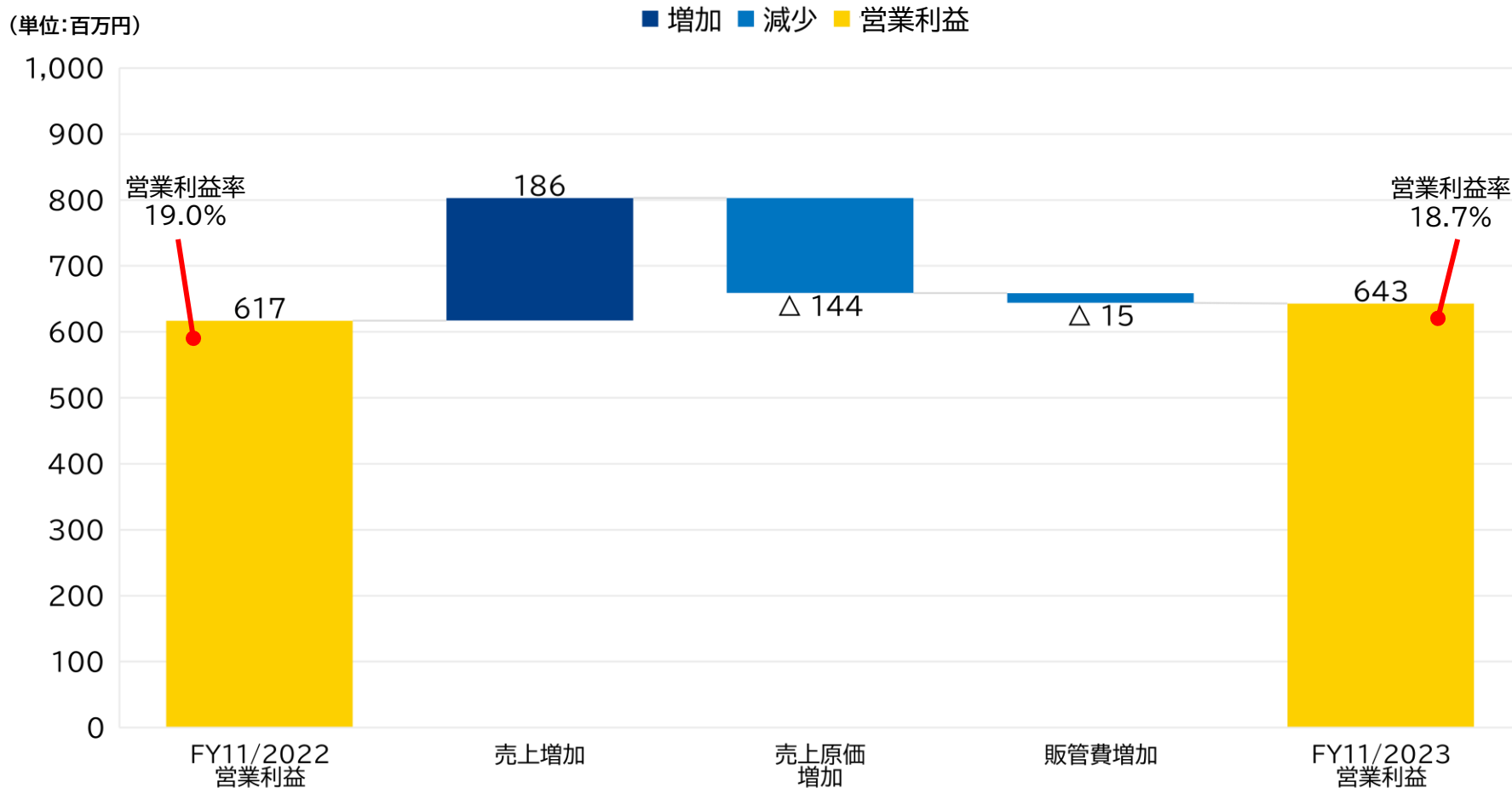
(単位:百万円)

営業利益



営業利益の状況(FY11/2023)

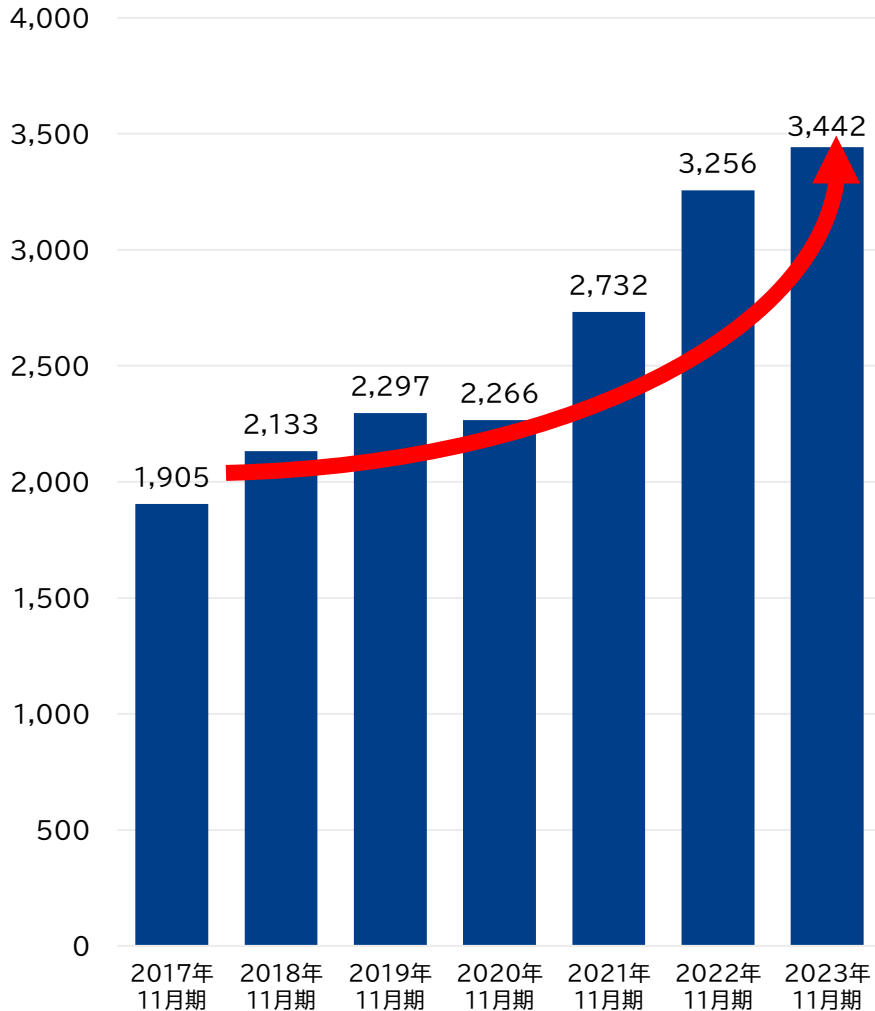
25百万円の**営業利益増** (前年同期比)



業績推移

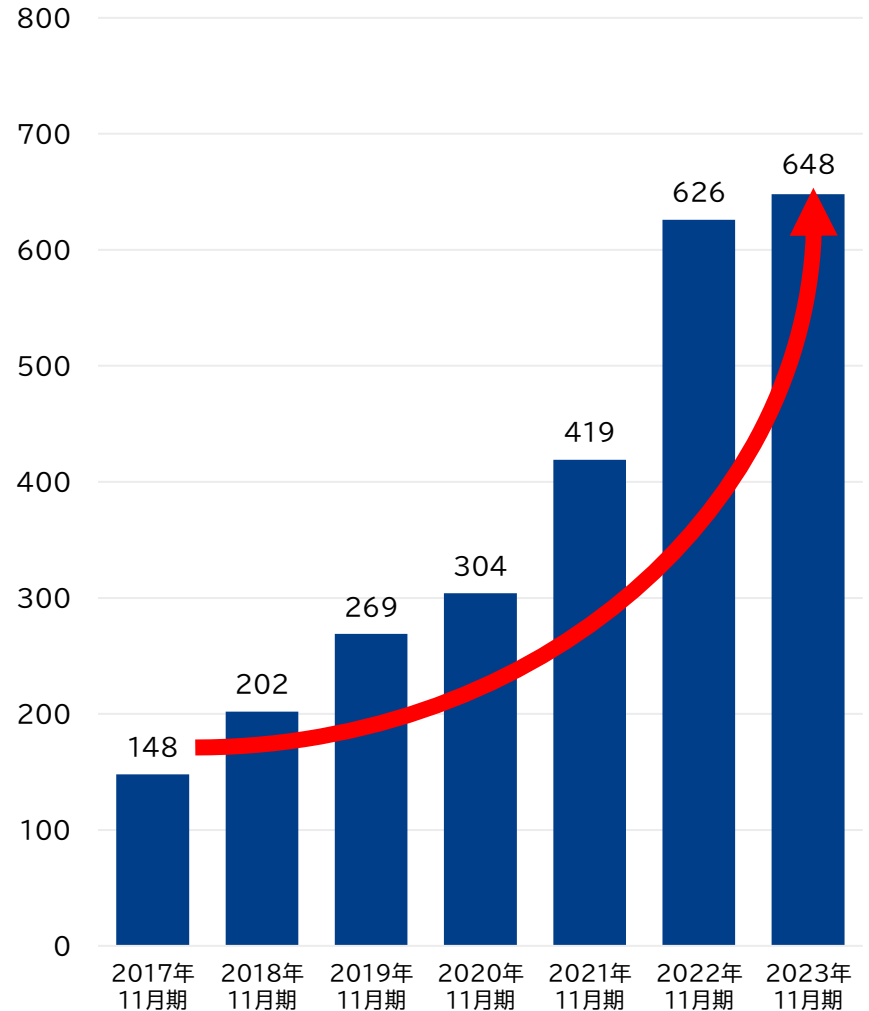
売上高

(百万円)



経常利益

(百万円)



カテゴリー別売上高(FY11/2023)

ソリューションは**6.4%増加**で堅調に推移
(前年同期比)

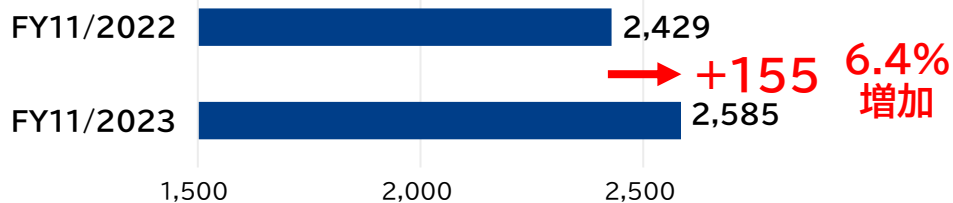
半導体は**13.2%増加**で好調を継続
(前年同期比)

先進技術ソリューションは前期の大型案件の反動で**19.3%減少**
(前年同期比)

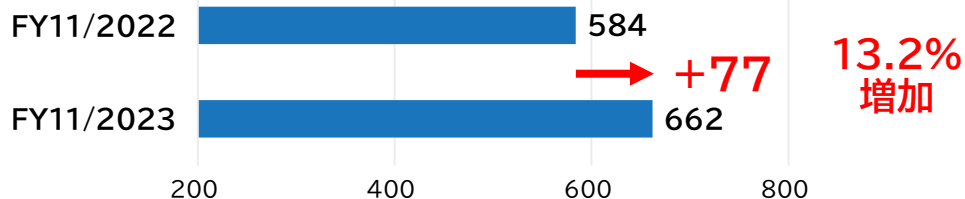
売上高(カテゴリー別)

(単位:百万円)

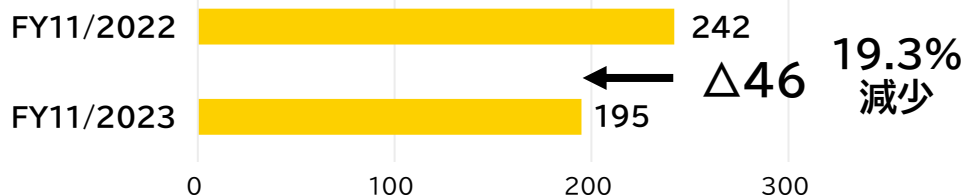
ソリューション



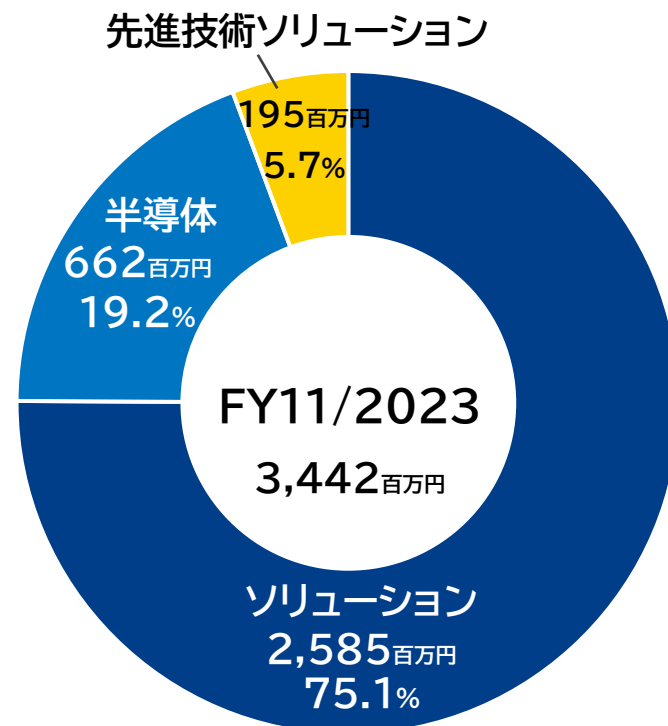
半導体



先進技術ソリューション



売上比率(カテゴリー別)



(注) 当社の事業セグメントは単一セグメントです。売上高のみカテゴリー別に集計しております。

取引先別売上高(FY11/2023)

東芝G、日立G、キオクシアG

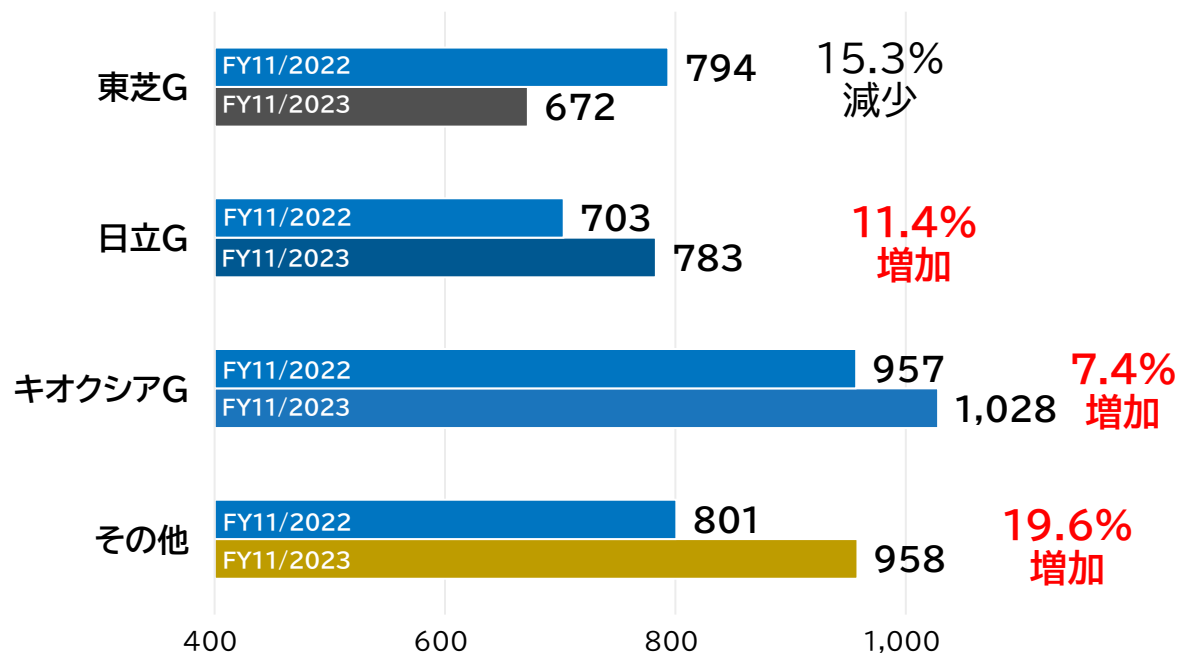
主要取引先は安定して推移

その他取引先 と 日立G が伸長

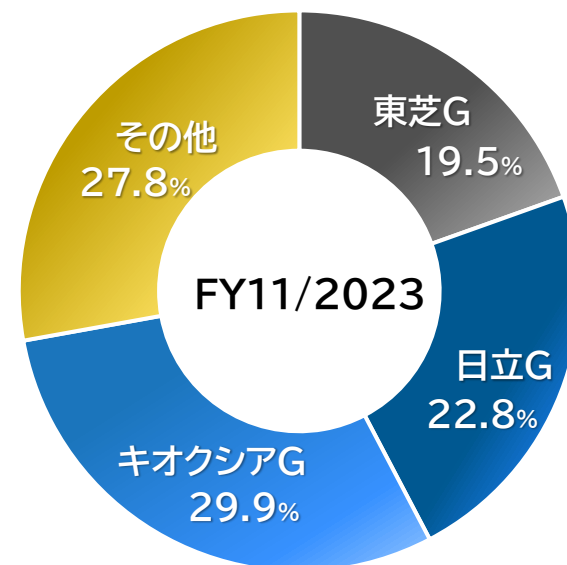
(19.6%増加)
(前年同期比)

(11.4%増加)
(前年同期比)

売上高(取引先別) (単位:百万円)



売上比率(取引先別)



(※)東芝Gの再編に伴い、従来東芝Gとして集計していた旧中部東芝エンジニアリング(株)(現キオクシアエンジニアリング(株))に対する売上高のうち前期3Q以降分をキオクシアGとして集計しています。これを考慮すると、東芝Gに対する売上高は実質0.9%の減少になります。

四半期別売上高・営業利益(FY11/2023)

通期売上高：34億42百万円

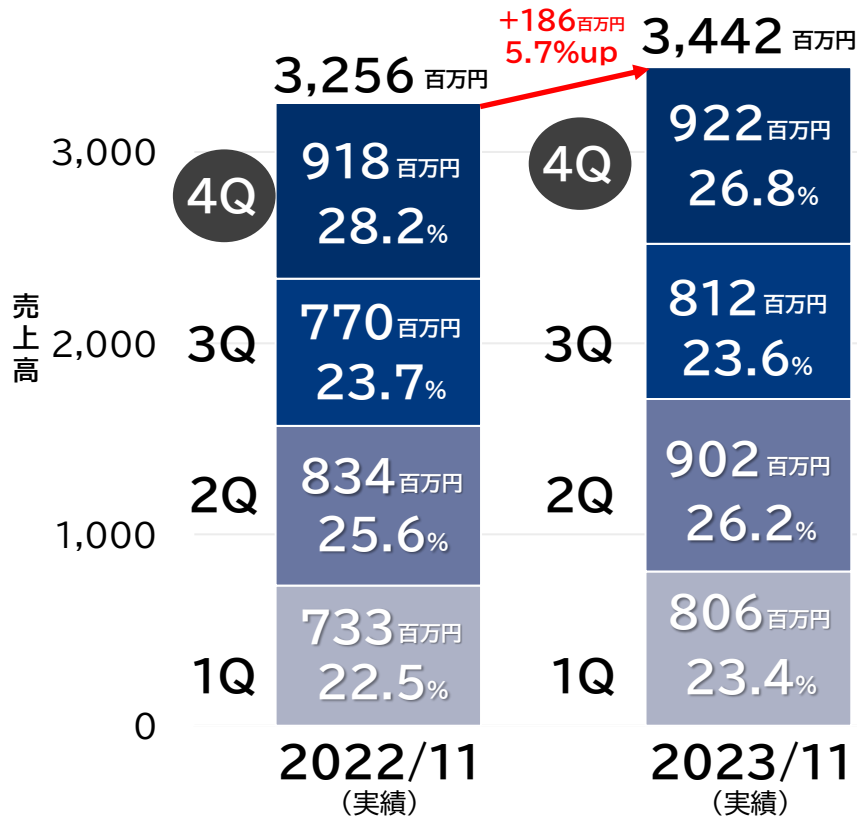
増加額：+186百万円 5.7%増加 (前年同期比)

通期営業利益：6億43百万円

増加額：+25百万円 4.2%増加 (前年同期比)

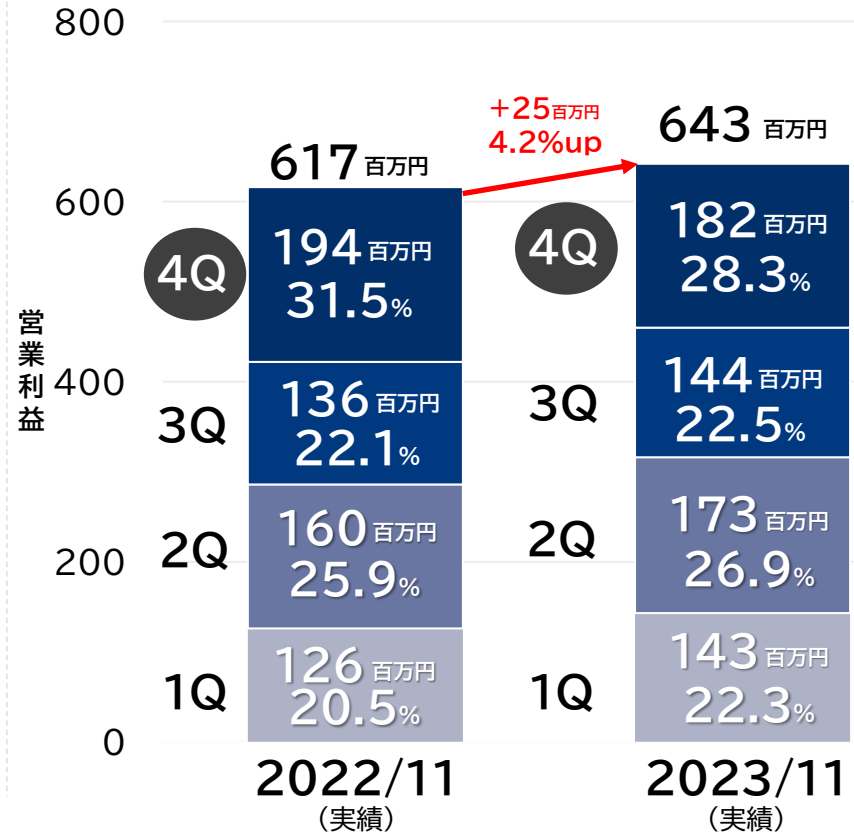
(単位:百万円)
4,000

売上高



(単位:百万円)

営業利益



※当社の業績には、エンジニアの増員状況や案件の納期の関係で若干の季節変動が見られます。

(全体)主要取引先動向

(2024年1月12日現在)

当社を取り巻く事業環境は引き続き順調に推移する見込み。減少を続けた半導体市況は生産調整がサプライチェーン全体で効果を上げ、成長が回復する見通し。一方、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念、物価上昇、中東地域をめぐる情勢など地政学的リスクへの対応は依然として課題となっています。

東芝G

2023年度上期の売上高は、前年同期比で減少したものの、受注高は前年同期比で増加している。昨年12月20日に株式が非上場となり、同時に新たな経営体制が発足。今後の業績回復が期待されます。

日立G

ITサービスを担う「デジタルシステム&サービス」セグメントにおいて、大型事業を中心に受注が堅調に推移。また、生成AI関連の受注も拡大。デジタル需要を背景とした事業拡大は継続する見通しであり、当社への引き合いも引き続き増加が期待されます。

キオクシアG

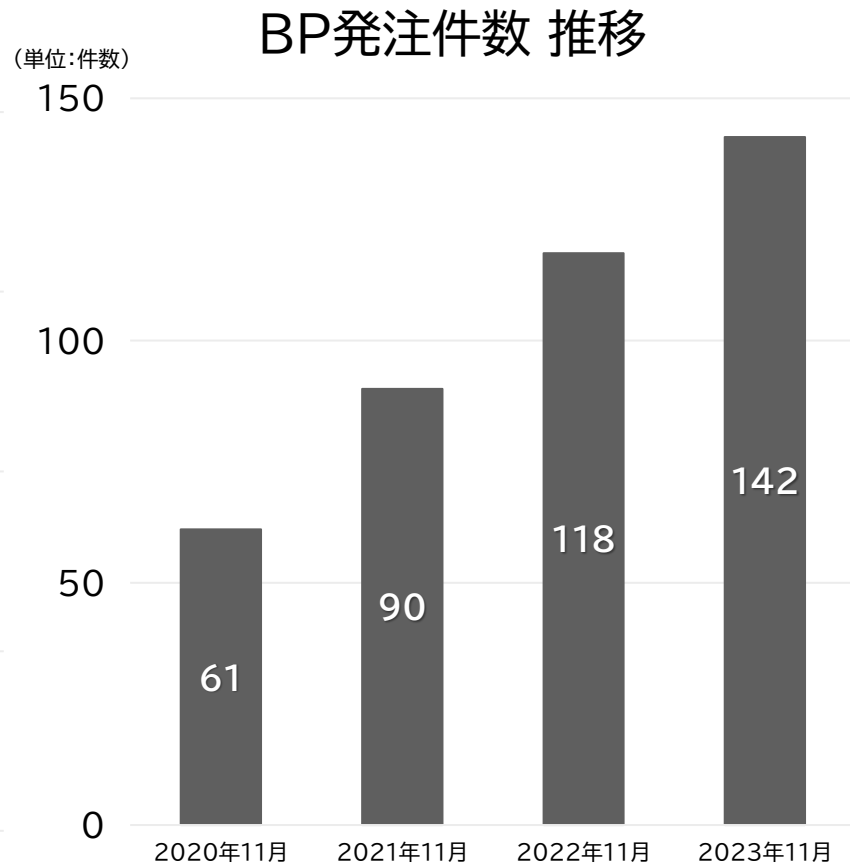
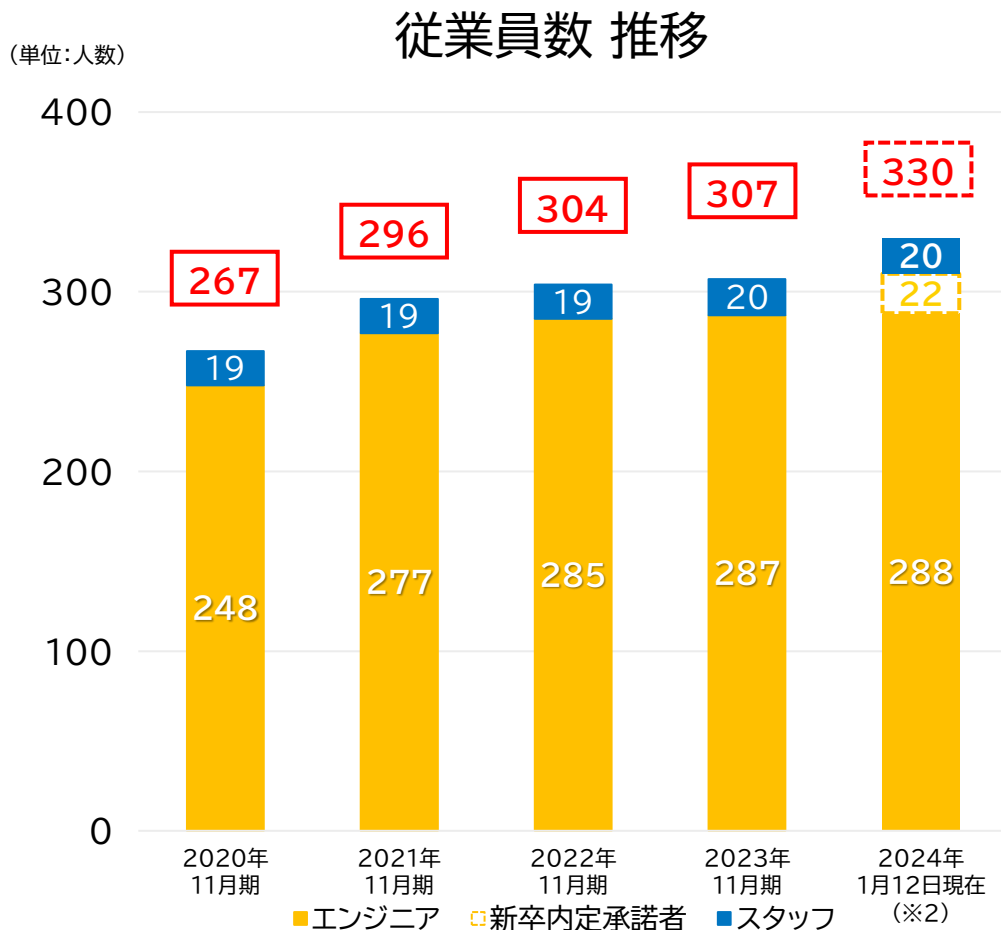
フラッシュメモリメーカー各社による生産調整の継続を受けて需給バランスは改善傾向にある。NANDフラッシュメモリの価格も下げ止まりから反転の傾向が見え始めている。需要動向にあわせた生産調整は継続する見通しだが、フラッシュメモリ市場の中長期的な成長トレンドについての見方に大きな変化はなく、回復が期待されます。

その他

ChatGPTに代表される生成AIが注目。業務での利用可能性の検討など、当社の取引先からの引き合いも拡大しています。

BP^(※1)戦力を維持しエンジニアリソースを確保

2024年11月期は新卒採用を大幅増(22名が入社予定)



※1 BP…ビジネスパートナー。業務委託等の形態で当社業務に従事するエンジニア

※2 1月12日現在の在籍者数+新卒の内定承諾者数

損益計算書(FY11/2023)

単位:千円	FY11/2022	FY11/2023	増減額	増減率
売上高	3,256,855	3,442,875	186,020	5.7%
売上原価	2,243,118	2,388,001	144,833	6.5%
売上総利益	1,013,736	1,054,874	41,137	4.1%
販売費及び一般管理費	395,823	411,278	15,455	3.9%
営業利益	617,913	643,595	25,681	4.2%
(営業利益率)	(19.0%)	(18.7%)		
経常利益	626,244	648,457	22,212	3.5%
(経常利益率)	(19.2%)	(18.8%)		
当期純利益	440,238	473,829	33,590	7.6%
(当期純利益率)	(13.5%)	(13.8%)		

貸借対照表(FY11/2023)

単位:千円	FY11/2022	FY11/2023	増減
流動資産	2,110,767	2,452,145	341,378
固定資産	170,732	164,315	△6,416
資産合計	2,281,500	2,616,461	334,961
流動負債	498,233	395,820	△102,413
固定負債	49,763	57,392	7,629
負債合計	547,996	453,212	△94,784
株主資本合計	1,733,503	2,163,249	429,745
純資産合計	1,733,503	2,163,249	429,745
負債純資産合計	2,281,500	2,616,461	334,961

トピックス

トピック： 持株会社体制への移行

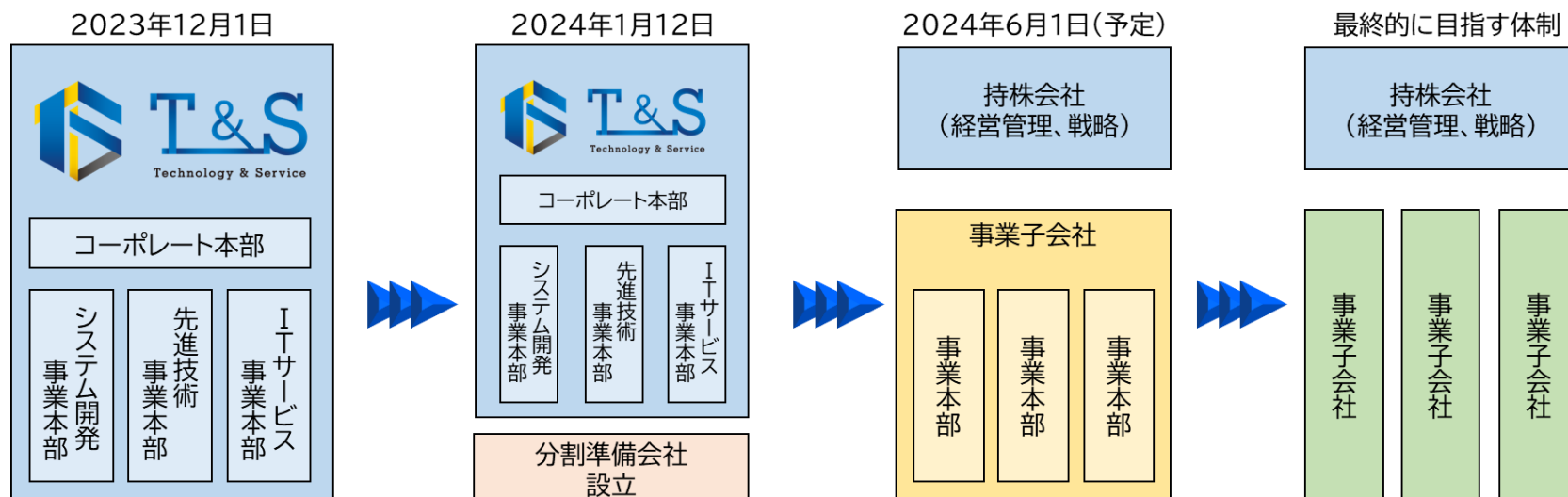
当社は、2024年中の**持株会社体制への移行**を決定しました。

目的

- ✓ 機動的できめの細かい経営の実現
- ✓ 事業会社の独立性の確保
- ✓ 効率的な資源配分
- ✓ 効果的なコーポレート・ガバナンスの実現
- ✓ 新規事業創出
- ✓ M&Aによる事業拡大の実現

スケジュール

- ✓ 分割準備会社を設立(1/12)
- ✓ 吸収分割契約(1/30予)
- ✓ 分割契約承認株主総会(2/28予)
- ✓ 吸収分割効力発生日(6/1予)



(2024年1月12日公表) 16

通期業績予想

2024年11月期 通期

(テーマ) 次のステージへ

2024年6月1日に事業本部制から持株会社体制へ移行予定

単位:百万円	2023年11月期 (実績)	2024年11月期 (予想)	増減額	増減率(%)
売上高	3,442	3,770	327	9.5%
営業利益	643	706	62	9.7%
経常利益	648	707	58	9.0%
当期純利益	473	481	7	1.5%

全社

すべての事業本部において順調に推移する見通し。既存顧客からの開発案件の引き合いが堅調に推移。費用構造に大きな変化はなく、技術者リソースを補うためBPの利用は継続する見通し。一方で、2024年11月期は新卒採用数を大幅に増加し教育体制を強化。従来通りの中途採用も含め、順次売上への寄与が期待される。

**システム開発
事業本部**

主要取引先からの継続案件を中心に堅調に推移する見通し。システム開発後にシステム運用保守に移行する割合が増えており、長期にわたる受注体制を維持できる見込み。中途採用およびBPによるエンジニアリソースを増強し、主要取引先にとどまらない新規案件獲得を目指していく。

**ITサービス
事業本部**

半導体工場における生産調整は終息傾向にあり、工場は安定して稼働、市場回復も見込まれ、工場における運用・保守サービスに係るエンジニア人材の供給が引き続き継続する見通し。新卒採用数を増加、将来にわたって成長が期待できる分野へ事業展開を見込み、適切な担い手の確保と育成を積極的に行う。

**先進技術
事業本部**

画像認識AI案件を中心にした既存取引先からの継続案件と横展開を軸に堅調な推移を見込む。前期から開始した生成AI案件や最新AIプロセッサ関連案件の拡大を予定しており、より最新の技術を活かした事業展開を見込む。新規顧客獲得に対しても、前期以上に積極的に注力していく。

株主還元

2024年11月期の配当性向も10%を目標とします

配当の基本方針

当社は、**将来の成長が見込まれる分野における新しい技術取得への投資を通じて企業価値を向上させる**ことを経営の重要課題と位置付け、これを実現することが株主に対する利益還元であると考えております。利益配分につきましては、企業価値向上を実現するために必要な内部留保の確保を優先しつつ、業績を考慮した適切な配当について継続して実施していくことを基本方針としております。

2024年11月期の配当につきましては、上記方針に沿って配当性向10%程度の水準を目途に実施することとして、1株当たり7円(45銭増配)を予想しております。

以上の施策を加味した財務指標は以下のとおりです。

	1株あたり配当金	配当性向	自己資本利益率 (ROE)
2023年11月期 (予定)	6円55銭	10.5%	24.3%
2024年11月期 (予想)	7円00銭	11.0%	20.2%

お問い合わせ先

ティアンドエス株式会社

経営企画IR部

Email / pr@tecsvc.co.jp

URL / <https://www.tecsvc.co.jp/>

本資料に掲載されている情報には、将来の見通しに関するものが含まれています。これらの情報については、現時点で当社が入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現や将来の業績を保証するものではありません。経済状況の変化や一般的な業界ならびに顧客ニーズの変化、法規制の変更等、様々な要因によって当該予想と大きく異なる可能性があります。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合において、当社は、本資料に含まれる将来に関するいかなる情報についても、更新又は改訂を行う義務を負うものではありません。